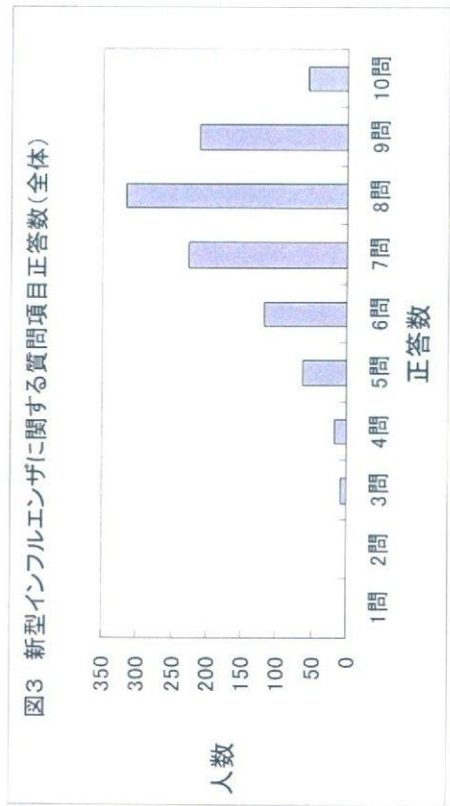
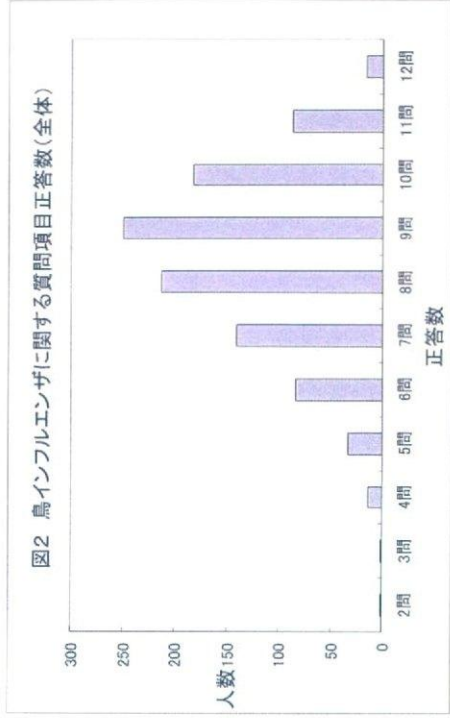


表3 新型インフルエンザについて

質問項目	正解	正答率	有意差	
			性別	年齢
1、新型インフルエンザとは、これまでにヒトの間で存在していなかったインフルエンザウイルス	○	81.26		
2、20世紀初頭に流行したスペイン風邪は、当時の新型インフルエンザである	○	80.96	※	※※
3、新型インフルエンザとは、現在、ヒトに感染している鳥インフルエンザのことである	×	64.08		※
4、これまで鶏肉を食べて鳥インフルエンザに感染した例はない	×	20.22		
5、新型インフルエンザの予防に、手洗いは有効である	○	94.01		
6、新型インフルエンザの予防に、うがいは有効である	○	93.42		
7、新型インフルエンザの流行では、人ごみを避けることは予防になる	○	93.52		
8、通常のインフルエンザワクチンは、新型インフルエンザにも効果的である	×	81.84	※	※
9、新型インフルエンザに対するワクチンは、現在病院で接種することができる	×	65.95		※※
10、新型インフルエンザは、かかった人に触ることで感染する	×	79.98		※

7552.5% <0.05 \* \* : p<0.01



厚生科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）  
大規模感染症発生時の効果的かつ適切な情報伝達の在り方に関する研究

狂犬病に関するインターネットを利用した質問紙調査  
主任研究者 丸井英二 順天堂大学医学部公衆衛生学教室  
分担研究者 堀口逸子 順天堂大学医学部公衆衛生学教室

#### 研究要旨

狂犬病に関する知識について、全国 20 歳から 50 歳台を対象としてインターネットを利用した調査を実施した。25 問のうち、回答率が 50%を下回ったのは、8項目の全体の約 1/3 であった。犬を飼っている人への質問においても回答率 50%台が2問あった。狂犬病の 36 年ぶりの国内発生やペットブームの現状から早急に情報提供を行っていかねばならないと考えられた。

#### A.目的

平成 17 年 11 月、国内において 36 年ぶりに狂犬病の患者が発生し、メディアに大きく取り上げられた。患者はフィリピンで感染していたものの、狂犬病予防法に基づいた犬の登録や予防注射の接種率の低下などから国内での感染も危惧される。

このような現状を踏まえ、住民に対してどのような情報を伝達し、注意喚起（警告？）する必要があるのか迅速に対処すべく、狂犬病に関する知識の現状を明らかにすることを目的とし、調査を実施したので報告する。

#### B.研究方法

分析対象は、goo リサーチに公募によって登録している消費者モニター約 23 万人のうちの 20 歳台から 50 歳台で、これまで会社が実施した各調査の回収率から、回収目標数 1000 名として抽出し、回答の得られた 1066 人である。

調査内容は、狂犬病の知識に関する一般問題 25 問と、犬を飼育している人への 9 問である。狂犬病の知識は、流行状況、国内発生、感染動物、感染経路、人や犬の症状、対処方法（行動）、治療法の有無、発症までの期間、

致死性、予防方法、法律の有無とその内容、検疫などで、「はい」「いいえ」の二者択一形式で回答を得た。また、基本属性としてあらかじめ調査会社で設定されている「年齢」「性別」「居住地」「回答日」を利用した。

分析には、SPSSを用い、t検定、カイ2乗検定、一元配置分散分析を行った。

#### C.結果

インターネット調査の短所として、モニター登録された者に対する有意抽出があげられている。そのため、今回の分析対象がどのような集団か、「年齢」「性別」「居住地」より明らかにする。

##### 1 対象者

性別は、男性 43.2%、女性 56.8%で、年齢別では、20 歳台 20.4%、30 歳台 43.5%、40 歳台 24.9%、50 歳台 11.3%であった（表1）。居住地は、北海道から沖縄まで島根県を除く 46 都道府県に在住し、北海道・東北 9.8%、関東 43.1%、甲信越・北陸 4.7%、東海 10.5%、近畿 18.6%、中国・四国 5.9%、九州・沖縄 7.4%となっていた。平成 17 年国勢調査の人口分布とは有意に差を認めた ( $p < 0.01$ )。また

犬を飼育している人は 19.2%であった。

## 2 知識

### 1) 分布と平均

#### ①一般質問(25問)

正答数と人数を図1に示す。正答数は、最小7問、最大24問、最頻は17問で、平均16.6±2.7問であった。平均値の差の検定では、性別では有意な差は認められなかった。犬の飼育の有無では、飼育している人が有意に高く( $p < 0.01$ )、特に女性においてその傾向が見られた( $p < 0.05$ )。年齢別では、20歳台において他の年齢よりも有意に低く( $p < 0.01$ )、特に女性において20歳台が40歳台に比べて有意に低く( $p < 0.01$ )、また犬を飼育していない人において、20歳台が40歳台に比べて有意に低かった( $p < 0.05$ )。

#### ②犬を飼育している人への質問(9問)

正答数は、最小値3問、最大値9問、最頻値7問で、平均7.0±1.2問であった(図2)。平均値の差の検定では、性別、年齢別において有意な差は見られなかった。

### 2) 各質問別正答率

#### ①一般問題(25問)

正答率は28.4%から91.6%の範囲で、50%を下回ったものが8問の全体の32.0%、80%を上回ったのは全体の48%に留まった(表1)。性別、年齢別、犬の飼育別の3項目すべてにおいて有意な差( $p < 0.01$ )が見られたのは、法律の認知(20)であった。男性77.4%、女性69.1%で男性が8.3ポイント高かった。犬の飼育あり86.9%、なし70.7%と13.2ポイントの差があった。

年齢による有意差が大きい質問項目( $p < 0.01$ )は、法律の認知(20)を含め、根絶地域(1)、症状(5)、流行(6)、対処方法(19)、犬の予防注射(22)の6項目で、各質問とも年齢

とともに正答率は上昇し、それぞれ20歳台と50歳台では、8.3、6.8、14.3、16.2、10.1、10.0ポイントの差があった。

犬の飼育の有無による有意差が多いのは、法律の認知(20)の他、狂犬病の致死率(14)の質問で、犬の飼育あり(53.7%)、なし(42.0%)では11.7ポイントの差があった。

#### ②犬を飼育している人への質問(9問)

正答率は、50.2%から95.6%で、80%を上回ったのは5問でそのうち4問は90%を上回っていた(表2)。

## D. 考察

### 1) 調査法について

調査方法について：無作為抽出を行ったが、特定の調査会社のモニターから対象を抽出したため、対象者が全国民を代表している集団であるとはいえない。しかしWeb調査は安価で迅速に実施できるので、ブレ調査としては利用可能であると考えられる。

### 2) 結果について

回答率が低いものと高いものとは60ポイント以上の開きがあり、早急に情報提供をしなければならない。狂犬病は年齢が高いものは幼少のころの記憶から回答率が高いと思われる。犬を飼っているものへも回答率が半数という項目があり、正しい知識の普及をしなければならない。

## E. 研究発表

なし

## F. 知的所有権の取得状況

なし

表1 一般問題

No	質問項目	正答	正解率	有意差		
				性別	年齢	犬
1	狂犬病は、アメリカでは根絶されている。	×	83.0%		**	
2	狂犬病は、猫に感染する。	○	44.6%			
3	狂犬病は、コウモリから感染する。	○	34.3%			
4	狂犬病発生地では、全ての動物で狂犬病がまん延している。	×	76.6%	*	*	
5	狂犬病の犬の症状のひとつとして、よだれをたらして攻撃的になる症状がある。	○	83.7%	*	**	
6	日本では、年に数件狂犬病の犬への感染が見られる。	×	57.7%		**	
7	犬の狂犬病の治療法はない。	○	34.1%			
8	人は、感染動物に咬まれて狂犬病に感染する。	○	87.9%			
9	感染してから発症までは1週間以内である。	×	51.2%			
10	アジアでは、狂犬病で亡くなる人が通年いる。	○	88.4%			
11	日本国内で人が狂犬病に感染する事例が頻発している。	×	84.7%			
12	狂犬病は、通常人から人へと蔓延する。	×	91.6%		*	
13	狂犬病の疑いの犬に咬まれたら、ワクチン接種を6回実施する。	○	32.8%			
14	狂犬病は、発症するとほぼ100%死亡する。	○	44.3%			**
15	感染しているかどうかは、発症前の検査でわかる。	×	41.1%			
16	狂犬病の人の症状のひとつとして、のどの筋肉が過剰に緊張して水が飲めなくなる「恐水症」がある。	○	64.4%		*	
17	人を咬んだ犬を10日間観察することによって人への感染の有無が判断できる。	○	28.4%			
18	人の狂犬病予防注射がある。	○	48.9%			
19	狂犬病流行地域で動物に咬まれたら、現地の医療機関に相談をする。	○	89.3%		**	*
20	日本には、狂犬病予防のための法律がある。	○	72.7%	**	**	**
21	徘徊している犬を見つけたら保健所に連絡をする。	○	80.9%		*	
22	日本では飼い犬の登録と犬への狂犬病予防注射が義務づけられている。	○	90.5%	*	**	
23	イヌ、ネコ、アライグマ、キツネ、スカンクを輸入するときは、動物検疫所で狂犬病の検査を受けなければならない。	○	86.6%			*
24	狂犬病予防法では、狂犬病未発生国からの動物輸入には狂犬病の検査が免除される。	×	80.9%			
25	盲導犬は、動物検疫所の輸入検査が免除されている。	×	84.7%			

\*: p&lt;0.05 \*\* : p&lt;0.01

表2 犬を飼っている人への問題

No	質問項目	正答	正解率	有意差	
				年齢	性別
1	飼い主は市町村に飼い犬を登録しなければならない。	○	91.7%		
2	犬の狂犬病予防注射は、犬から犬への感染予防の意味もある。	○	92.7%	*	
3	犬の狂犬病予防注射は、人への感染予防の意味もある。	○	95.6%		
4	犬の登録や予防注射を行っていない場合、その犬は捕獲される。	○	50.2%		
5	捕獲された犬は直ちに処分される。	×	78.0%		
6	飼い主は、鑑札と予防注射済票を犬に装着しておかなければならない。	○	63.4%		
7	鑑札は、犬が行方不明になったときのために装着するものである。	×	50.2%		*
8	狂犬病が発生した時、その地域の犬は全て処分される。	×	93.2%		
9	狂犬病の予防注射がされている犬は狂犬病の輸出検査を受けずに海外へつれていける。	×	85.4%		

\*: p&lt;0.05 \*\* : p&lt;0.01

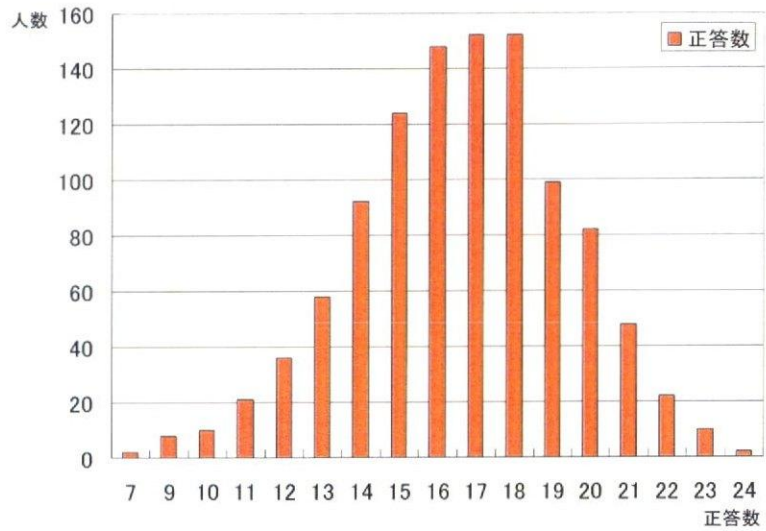


図1 一般問題(25問)の正答数と人数

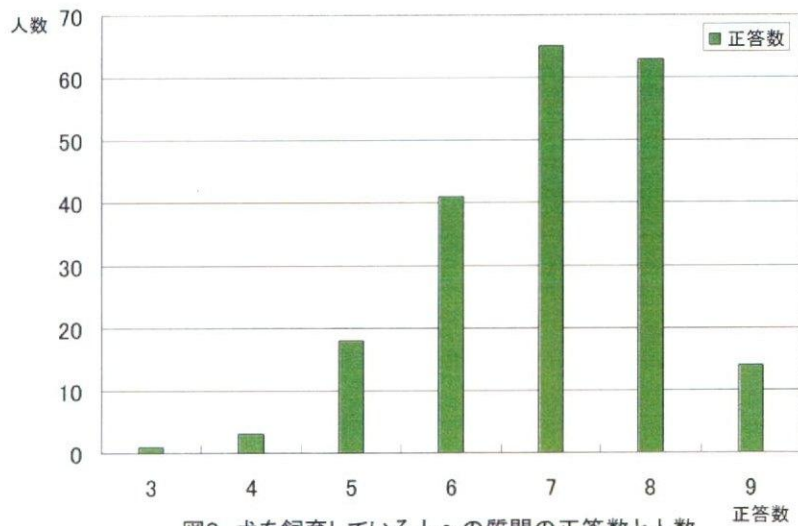


図2 犬を飼育している人への質問の正答数と人数

厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学研究特別研究事業）

分担研究報告書

感染症に対するリスクコミュニケーションの在り方についての実践的研究

狂犬病をめぐるテレビ報道の実態

分担研究者 柄本三代子 東京国際大学人間社会学部

研究要旨

2006年11月、日本人として36年ぶりの狂犬病患者がたてつづけに2例発生した。久しく生じておらず、危機意識も低下していたと思われる人獣共通感染症である。狂犬病に関する基礎的な情報のほとんどを、多くの視聴者が今回テレビ報道から得たと考えても不思議ではない。

視聴者にとって重要なのは、自分の身近で起こりうるものであるのかということと、どのような予防法や対処法があるのかということである。自らにとって重要と思われる情報については、それ以外のものよりもより積極的に情報摂取行動を実践するのが一般的である。そのような視聴行動に 대응するものとして、はたしてテレビ番組の報道はいかになされていたのかを精査した。報道内容には当然ばらつきがあり、先ず視聴者の目をひきつけるためにセンセーショナルと思われる用語が多用されていた。

A 研究目的

36年にわたって日本人患者が発生していない狂犬病である。しかし、世界規模で見ると年間5万人以上が狂犬病を発症して死亡している。また、狂犬病感染の恐れのない国の方が極めてまれである。

日本では1950年に狂犬病予防法が施行され、飼い犬の登録とワクチン接種が義務化した。また同時期から、いわゆる野犬の捕獲も徹底された。その結果、1956年以降、イヌ、ヒトともに狂犬病の発生は国内では確認されていない。その後の日本人の発症例は、いずれも海外での感染であると確認されている。

日本国内にいる日本人にとっては、すでに「過去」のものとなった感のあった狂犬病であるが、実は感染のリスクが高まっていることが、2006年11月の日本人発症2例によって大々的に知られるところとなった。その情報摂取の手段としてはマスメディアが主であり、中でもテレビメディアによるものの影響力は甚大なものである。したがって、本研究が分析対象としたメディアはテレビに限定している。

さて、視聴者にとってテレビ番組視聴の

際に重要な事の一つには「自分との関連」がある。「日本で36年ぶりの狂犬病発症」が自分と自分の生活とにいかに関連が有るのか無いのか、ということだ。

この視点から、本研究において主たる分析対象としたのは、以下の三点についての言及である。

①発症したら100%の致死率であると言われている狂犬病である。感染している恐れのあるイヌを含む動物にかまれた際どのように対処すればよいのか（以下および別表中【事後処置】）。

②海外へ渡航する場合にはどのようなことについて留意すればいいのか。あるいは、渡航前に行いうる予防策としてどのようなことがあるのか（以下および別表中【海外渡航】）。

③実際に狂犬病に感染した人が、一定期間日本に滞在あるいは在住していたことが今回判明したわけだが、ヒトからヒトへの感染のおそれはあるのか（以下および別表中【ヒトヒト感染】）。

以上三点について焦点をしぼり、言及の有無と内容の詳細についての考察を本研究の目的とする。

## B 研究方法

調査期間は2006年11月6日から11月19日、同年11月22日から11月29日、同年12月4日から10日である。

テレビ番組のモニターをモニター会社に依頼した。モニター依頼したキーワードは「狂犬病」である。したがって、収集対象となったデータ内容は日本に限定されたものではない。

## C 研究結果（別表参照）

### C-1 「狂犬病」が報道されたきっかけ

調査期間中「狂犬病」関連で報道されたのは77番組であった。

そのうち11月12日放送のものは、狂犬病の発生率が毎年高くなってきている中国の狂犬病対策についてのものであった。一家で一匹までしか飼えないというもので、これに対し北京でデモが起こったという内容であった。

11月16日から19日の放送は、フィリピンから帰国した京都市在住の60代男性が、帰国後発祥したという内容である。犬にかまれ感染したのは8月のフィリピンでのことであった。亡くなったのが11月17日であり、このことについても当然放送があった。

11月22日から29日の放送は、同じくフィリピンで8月に犬にかまれた60代男性が狂犬病を発症したというものだ。「36年ぶり」の日本人発症例が、一週間のうちに2例あったということになる。

12月6日から7日にかけての放送は、2例目の患者が死亡したという内容であった。

### C-2 「対応策」言及の有無と内容

調査対象となった77番組のうち、先述した【事後処置】【海外渡航】【ヒトヒト感染】、いずれについても言及がなかったのが20番組であった。

全てに言及がなされていたのが12番組であった。

【事後処置】の言及内容としては、噛ま

れたらすぐに石鹸を使用し傷口を水で洗い流し、病院にかかってワクチン接種を受けるというものである。

【海外渡航】については、厚生労働省を情報源とするものが多く、汚染地域への渡航の前にはワクチンの接種がのぞましいこと、海外では不用意に動物に接触しないことなどであった。

【ヒトヒト感染】については、ほとんどの報道が厚生労働省の発表であるとして、そのおそれはないと断言していた。しかし、中には「京都市での発症例について、罹患者と接触の有った者についても感染の有無について調べている」という報道もあり内容が矛盾していた。あるいは、番組内でヒトヒト感染の可能性は無いと断言する一方で、ゲストとして登場していた専門家がその可能性を指摘するといったケースもあった。

いずれにしても、対応策について言及があったもののほとんどは、共通していた。

## D 考察

36年ぶりに日本人の狂犬病発症例があったことによって、狂犬病に関する基礎的な知識の普及と啓発が、マスメディアをとおしてもまた為された。

とくに、犬を飼う際には予防接種が義務付けられていること、登録されていないペットが増えていることなどが繰り返し報道され、飼い主にたちにはとくに啓発の契機となったであろう。

また、厚生労働省が作成し、空港等で掲示しているポスターが番組内に頻々と登場した。そこに書かれている文言をアナウンサーに読み上げさせた番組もいくつかあった。番組内で多用された理由としては、①大文字、②多色刷りで、③わかりやすい言葉で書かれていたためと思われる。今後、このようなポスターを作製する際には、テレビ番組等での活用可能性を視野に入れておくと、伝えたい情報がより伝わりやすくなるのではないだろうか。



## F 健康危険情報

該当なし

## G 研究発表

該当なし

## H 知的所有権の出願・登録状況

該当なし

## 文献

Friedman, Sharon M., Dunwoody, Sharon., & Rogers., Carol L. (Ed.). (1999). *Communicating Uncertainty: Media Coverage of New and Controversial Science*. Lawrence Erlbaum Associates.

Sreberny-Mohammadi, Annabelle., Winsec, Dwayne., McKenna, Jim., & Boyd-Barrett, Oliver. (Ed.). (1997). *Media in Global Context*. Arnold.

放送日	局	番組名	ヘッドライン/テロップ(主要なもの)	出稿時間(秒)	事後処置	海外渡航	ヒト感染	
11月12日	NHK	NHKニュース おはよう日本	狂犬病対策でもみあい/動物愛護団体 野良犬の処分強化などに反発	32	×	×	×	
	NTV	NNNニュースサンデー	狂犬病流行の北京 愛犬家がデモ/"一家に一匹"政策 北京で愛犬家デモ/ペット対策 ・高さ35cm以下の犬 ・一家に一匹まで/約500人が抗議活動/18人が一時身柄を拘束/北京 55万匹の犬(登録)/北京 約10万人が犬にかまれ9人が狂犬病を発病	53	×	×	×	
11月16日	NTV	NEWS ZERO	36年ぶり pm7:00/36年ぶり、狂犬病発症。 重体 京都市在住の男性/狂犬病 通常人から人へ感染せず広がる心配なし	25	×	×	○	
	TBS	イブニング・ファイブ	1970年以來36年ぶり 京都の男性が狂犬病発症/60代の男性 今年8月フィリピンで犬にかまれる日本人が36年ぶりに狂犬病に.../36年ぶり狂犬病発症 厚生労働省の会見 狂犬病を発症した男性・京都市在住60歳代 ・8月末フィリピンに滞在中大犬にかまれる/日本人の発症は36年ぶり/発症した男性 帰国後狂犬病特有の症状を発症→意識不明の重体/厚生労働省 人から人に感染することは	23	×	×	×	
		筑紫哲也ニュース23	36年ぶり 狂犬病で男性重体/午後7時 厚生労働省の会見 狂犬病発症 京都市内の60代男性/男性 フィリピンで犬にかまれ 1日帰国 きょう狂犬病と確認され重体/狂犬病 ウイルスに感染した哺乳類にかまれることで人間に感染 致死率はほぼ100%/日本人の発症は1970年以來36年	41	×	×	○	
	TX	ニュースブレイク	36年ぶり 狂犬病で男性重体/午後7時 厚生労働省の会見 狂犬病発症 京都市内の60代男性/男性 フィリピンで犬にかまれ 1日帰国 きょう狂犬病と確認され重体/狂犬病 ウイルスに感染した哺乳類にかまれることで人間に感染 致死率はほぼ100%/日本人の発症は1970年以來36年	49	×	×	×	
NHK	NHKニュース おはよう日本	男性が狂犬病に感染し重体/狂犬病に感染 男性が重体/狂犬病に感染したのは京都の60代の男性/男性 8月末ごろフィリピンで犬にかまれ今月に入って脱水症状など訴える/男性 狂犬病と診断され現在意識不明の重体/狂犬病 かまれることで感染し発病すると死に至るおそれ/厚生労働省 狂犬病流行地域への旅行者に注意呼びかけ/京都府など 保健所などに窓口設けて相談受け付け/狂犬病 国内では昭和45年以來	86	×	○	○		
11月17日	Oh!4 NEWS LIVE		海外旅行中犬にかまれる 36年ぶり狂犬病/海外旅行中 犬に 36年ぶり狂犬病/厚生労働省 男性(60歳代)が今年8月比に旅行中、犬にかまれ狂犬病発症/国内で狂犬病発症は36年ぶり 男性は意識不明の重体/男性 ・今月1日に帰国 ・9日にかげに似た症状 ・13日に幻覚症状 ・きのう、狂犬病ウイルスを確認/厚生労働省「渡航中に不用意に動物にふれあわないでほしい」/狂犬病 人から人につくことはない	128	×	○	○	
			36年ぶり狂犬病患者発生/フィリピンで犬にかまれ36年ぶり狂犬病患者 厚生労働省の会見 京都市の男性(60歳代)今年8月フィリピンで犬にかまれ狂犬病を発症/京都市の男性(60歳代)意識不明の重体/狂犬病 海外では依然発症/厚生労働省「渡航中に不用意に動物に触らないでほしい」/フィリピンでかまれ...36年ぶりに狂犬病/国内36年ぶりに「狂犬病」発症/海外でかまれ36年ぶりの狂犬病 厚生労働省 男性(60歳代)が今年8月比に旅行中、犬にかまれ狂犬病発症/国内で狂犬病発症は36年ぶり 男性は意識不明の重体/男性 ・今月1日に帰国 ・9日にかげに似た症状 ・13日に幻覚症状 ・きのう、狂犬病ウイルスを確認/厚生労働省「渡航中に不用意に動物にふれあわないでほしい」/狂犬病 人から人につくことはない/36年ぶりの狂犬病/フィリピン旅行中犬にかまれ36年ぶり狂犬病患者 京都市の男性(60歳代)今年8月フィリピンで犬にかまれ狂犬病を発症/京都市の男性(60歳代)意識不明の重体/狂犬病 海外では依然発症/厚生労働省「渡航中に不用意に動物に触らないでほしい」/36年ぶり日本で狂犬病/36年ぶり狂犬病患者が発生/フィリピンで犬にかまれ36年ぶり狂犬病患者 京都市の男性(60歳代)今年8月フィリピンで犬にかまれ狂犬病を発症/京都市の男性(60歳代)意識不明の重体/フィリピンで犬にかまれ...国内36年ぶり 狂犬病発症/京都市の男性(60歳代)今年8月フィリピンで犬にかまれ狂犬病を発症/京都市の男性(60歳代)意識不明の重体	247	×	○	○	
	NTV		36年ぶり 男性が狂犬病で重体/きのう午後7時 厚生労働省が緊急会見/日本で36年ぶり 60代男性が狂犬病 きのう午後7時 厚生労働省担当者は...患者さんは60歳代の男性です「狂犬病」に罹患したと判断されました/狂犬病 狂犬病になった犬 日本国内で人間が狂犬病になったのは36年ぶり/狂犬病は非常に恐ろしい病気/岐阜大学 源宣之名誉教授 ほぼ100%死亡します/100%死に至る狂犬病 その実態とは...?/海外で犬にかまれた60代男性が狂犬病 きのう午後7時 厚生労働省担当者は...フィリピンから帰国された方に狂犬病が発症されたということで報告します/狂犬病を発症したのは京都市の60代男性/国内では36年間なかった狂犬病になぜかあったのか?/男性は8月末にフィリピンに渡航した/その際に、犬に手をかまれたということです/男性は8月末にフィリピンで犬にかまれた/現地で何事もなく11月1日帰国/11月9日風邪のような症状/その後、体調が悪化し幻覚症状が起こる/発症してわずか5日後意識不明の重体となる/かまれてから2か月以上何も起きなかった理由は.../岐阜大学 源宣之名誉教授 発病した犬にかまれて1か月~2か月後に発症する 潜伏期間中は狂犬病と診断できない/ラブドウイルス/人間が狂犬病になる ウイルスを持つ犬にかまれるケース/狂犬病を発症するとどんな症状が出る...?/岐阜大学 源宣之名誉教授 風邪のような症状というか鼻水が出たり 食欲がなくなる発熱が起こる その次に水を嫌がる ちよつとした刺激で全身のけいれんを起こして苦しい... 水を怖がるので狂犬病を恐水症という その後、幻覚を起こしたり叫び声を上げたり暴れ回る/最後は...Q狂犬病で発症すると? 助かりません ほぼ100%死亡します/狂犬病になった犬 発症してから1~2週間死亡する/1950年5月読売国際ニュース 1950年に狂犬病が流行した時の映像/犬にかまれた子どもがワクチンを接種している/1950年当時狂犬病は人と動物で約1000件/1950年 狂犬病予防法が施行され 飼い主のワクチン接種義務化/国内では狂犬病は撲滅/36年前狂犬病にかかった日本人が感染した場所はネパール/海外での感染/岐阜大学 源宣之名誉教授 現地で素性のわからない犬に「かわいい」と寄っていくのは日本人だけ! 特に東南アジアやアフリカへ1週間以上旅行する人はワクチン打つことが大事! /フィリピンでは2年前248人が狂犬病で死亡/ワクチンを打たずに海外へ行き犬などにかまれたら...?/危険な日本人旅行者 狂	496	○	○	○	
	スッキリ!!		ラジかるッ	36年ぶり日本で狂犬病	124	×	×	×
11月18日	NNN Newsリアルタイム		(狂犬病が)発症したらほぼ100%の死亡率だと思えます/なぜ?狂犬病に.../"死亡率100%"の怖さ 国内で36年ぶり発症	258	○	○	○	
			JNNニュースバード	京都の男性 狂犬病を発症 厚生労働省の会見	37	×	×	○
			みのもんたの朝ズバッ!	京都の男性 狂犬病を発症 厚生労働省の会見	33	×	×	○
			ピンポン!	狂犬病...一部を除き世界中で流行中! スポーツニッポン	204	○	×	×
			イブニング・ファイブ	国内で36年ぶり...狂犬病で日本人男性死亡	56	×	×	×
			筑紫哲也ニュース23	狂犬病の男性死亡 厚生労働省の会見	27	×	×	×
			めざましテレビ	狂犬病の男性重体	90	×	×	×
			めぐまじりテレビ	狂犬病で男性重体/狂犬病 国内での感染例は50年以上なし 帰国後に発症した例も36年ぶり	66	○	×	○
			とくダネ!	フィリピンで犬にかまれ 日本人男性が「狂犬病」発症	121	○	○	○
			やじうまプラス	国内で36年ぶり狂犬病発症	308	×	○	○
			ワイド!スクランブル	36年ぶりに発症 治療法ナシ!? 狂犬病の恐怖/岐阜大学名誉教授 源宣之	298	○	○	○
			モーニングサテライト	京都の男性 狂犬病で重体	38	○	○	×
朝はビタミン!	フィリピンで犬にかまれ 京都の男性 狂犬病で重体	52	○	○	×			
速報W!	フィリピンで感染 狂犬病の男性が死亡/飼い犬の数と予防接種率	148	×	×	○			
11月18日	NTV	ウェークアップ! ぶらす	狂犬病で男性死亡 フィリピンで感染	16	×	×	×	
11月19日	NTV	Theサンデー	36年ぶり日本人狂犬病	57	×	×	×	
11月19日	NHK	NHKニュース おはよう日本	横浜の男性 狂犬病に感染か/厚生労働省 狂犬病ウイルスと確認されればきょうにも正式発表へ	95	○	○	×	
		ニュース(12:00)	狂犬病 フィリピンで犬にかまれ発症/男性が狂犬病 今月2例目 厚生労働省の会見 午前10時/狂犬病と確認 横浜市の60代男性/国立感染症研究所で狂犬病ウイルス検出	87	○	○	×	
		ニュースウオッチ9	狂犬病 2人目の患者を確認/厚生労働省の会見/フィリピン保健省狂犬病対策責任者/中国中央テレビ 先月30日/国立感染症研究所ウイルス第一部 倉根一郎部長	335	○	○	○	
		NNNニュースダッシュ	狂犬病発症 またフィリピンで...	50	×	×	×	
		ザ・ワイド	フィリピンから一時帰国男性 新たに狂犬病発症	70	×	○	○	

11月22日	NTV	donna イブニングドレス	また発症／読売新聞夕刊社会面	68	○	○	×
		NNN News リアルタイム	狂犬病の発生状況／対策は大丈夫か？国内で狂犬病また発症／厚労省の会見／家畜衛生フォーラム2006 きょう午後 狂犬病の侵入防止	222	○	○	×
		NEWS ZERO	2例目 am10:00／また、狂犬病	37	×	×	×
	TBS	みのもんたの朝ズバッ！	フィリピンでかまれる 神奈川の男性も狂犬病	37	×	×	×
		はなまるマーケット	また狂犬病／狂犬病で死亡した京都市の男性とは関連性なし	59	×	×	○
		ピンポン！	また狂犬病発症／厚生労働省の会見 けさ 36年ぶりの次が1週間ぶりなので正直驚いております	90	○	○	○
		イブニング・ファイブ	36年ぶり 相次ぐ狂犬病の発症／日本獣医師会 大森伸男専務理事	217	○	○	×
		イブニング・ファイブ	36年ぶりに相次ぎ 男性(65)が狂犬病発症／狂犬病のウイルス 国立感染症研究所HP／日本獣医師会 大森伸男専務理事	90	○	○	×
		筑紫哲也ニュース23	横浜に狂犬病男性 比で犬にかまれる 36年ぶり2人目	47	×	×	×
		FNNスーパーニュース	横浜に狂犬病男性 比で犬にかまれる 36年ぶり2人目	188	×	○	○
CX	ニュースJAPAN	わずか1週間でまた「狂犬病」で男性重体／厚生労働省 1週間もたないうちに2例目の患者さんが発生しました／佐藤獣医師 佐藤克獣医師	67	×	○	×	
	ワイド！スクランブル	また国内で患者発生	238	○	○	○	
EX	スーパーJチャンネル	先週死亡に続き また「狂犬病」男性重体	619	○	○	×	
	報道ステーション	“水が怖い 風が怖い” 狂犬病またもや発症／狂犬病またもや発症 “不治の伝染病”なぜ今／国立感染症研究所 山田章雄獣医学部長／フィリピン保健省 狂犬病対策担当者／上海に住む愛犬家／北京“一家一犬政策”	59	×	×	×	
TX	ニュース&マーケットイレブン	フィリピンでかまれ また狂犬病発症	145	○	○	×	
11月23日	NTV	ズームイン！！SUPER	横浜の男性 狂犬病発症／感染症に詳しい 大久保クリニック 三宅健治院長	781	○	○	×
		スッキリ！！	また狂犬病…フィリピン緊急取材／国際ナショナルクリニック キョン・チンファイ医師／家畜衛生フォーラム2006 きょう午後 獣医学博士 岐阜大学 源宣之名誉教授	136	○	○	○
		ラジかるッ	また狂犬病！！65歳男性重体	271	○	○	○
	TBS	JNNニュースバード	36年ぶりに相次ぎ 65歳男性が狂犬病発症／日本獣医師会 大森伸男専務理事	118	○	○	○
		みのもんたの朝ズバッ！	わずか5日間で2人目の発症／世界で毎年5万人死亡 そもそも狂犬病とは？／日本の犬は大丈夫？／日本獣医師会 大森伸男専務理事／国立感染症研究所山田章雄獣医学部長／フィリピン保健省 伝染病課担当者／源宣之 岐阜大学名誉教授 獣医学博士 日本における狂犬病研究の第一人者「ヒトからヒトにまっく感染しないわけではない」	82	×	×	×
	CX	めざにゅ～	狂犬病 国内でまた発症	189	×	○	×
		めざましテレビ	なぜ狂犬病が…短期間で2例発症／佐藤獣医師 佐藤克獣医師／フィリピンから帰国した人は	170	×	○	×
	EX	FNNスーパーニュース	狂犬病を発症した患者／衝撃…狂犬病の恐怖 “2人目”男性は重体 発症後「死亡率100%」／フィリピン保健省 ミナバ・ヴィンランドさん／佐藤獣医師 佐藤克獣医師	375	○	○	×
		やじうまプラス	先週死亡に続き 狂犬病 またもや発症／厚生労働省 きのう午前10時 健康局結核感染症課 三宅智課長／感染症情報管理室 滝本浩司室長／国立感染症研究所山田章雄獣医学部長／フィリピン保健省 狂犬病対策担当者	574	○	○	○
		スーパーモーニング	“不治の感染症”なぜ今？ 狂犬病2人目発症 致死率100%の恐怖 きょう厚生労働省	185	○	○	×
11月24日	NTV	ズームイン！！SUPER	読売新聞夕刊 狂犬病また発症	45	○	×	×
		ラジかるッ	国内で患者2人 よくわかる狂犬病基礎知識	889	○	○	×
	CX	とくダネ！	なぜ今！？狂犬病連続発症の原因？“36年ぶり”狂犬病発症 問われる「危機管理」／日本の犬は安全か？「狂犬病」対策の盲点	220	×	○	×
11月25日	NTV	FNNスーパーニュース	フィリピン「狂犬病事情」予防接種「していない」／放し飼いの犬が徘徊 日本人「予防接種せず」マニラ緊急取材	65	×	×	×
		ニュースJAPAN	狂犬病患者の実態 フィリピンでは…	476	○	×	×
	TBS	ウェークアップ！ぶらす	「狂犬病」なぜ今？ 男性2人相次ぎ発症	12	×	×	×
11月26日	NTV	ブロードキャスター	36年ぶり 2人目の狂犬病発症	809	○	×	×
		Theサンデー	狂犬病 国内で2例目発症	42	×	○	×
	TBS	サンデーモーニング	狂犬病 国内でまた発症	123	○	×	○
11月27日	NHK	サンデー・ジャポン	動物奇想天外ニュース 日本人が狂犬病発症／狂犬病にかかった犬の見分け方とは？狂犬病の犬に噛まれたらどうすればいいの？	334	○	×	×
		NHKニュース おはよう日本	狂犬病 予防と対策／狂犬病 対策は	193	○	○	×
11月28日	NTV	ラジかるッ	今日のお悩み 「狂犬病」が不安…／「狂犬病」とは…／「狂犬病」は犬だけじゃない！／ペットにも危険性はある！／もしも噛まれてしまったら…？	383	○	○	×
11月29日	EX	スーパーJチャンネル	感染地の犬が“不法上陸” 日本に迫る「狂犬病」の恐怖／狂犬病の恐怖が迫る 感染地の犬が“不法上陸” 野犬化の危険も…／外国犬 検査受けて上陸／ロシア犬 頻りに上陸 野犬化することも／稚内市衛生課	744	○	×	×
12月6日	NTV	Oh! 4 NEWS LIVE	狂犬病だけじゃない脅威／西ナイル熱 感染した鳥から蚊を介して人に感染 米東海岸から西海岸へ広がって昨年119人死亡	46	×	×	×
12月7日	NHK	ニュース(15:00)	フィリピンから帰国 狂犬病の男性死亡	75	○	○	×
		首都圏ネットワーク	狂犬病 男性が死亡／狂犬病による死亡 今年に入り2人目	45	○	○	×
	NTV	NNN News リアルタイム	狂犬病発症の男性死亡ことし2例目	23	×	×	×
	EX	イブニング・ファイブ	横浜市 狂犬病で2人目死亡	34	×	×	×
EX	スーパーJチャンネル	フィリピンで犬にかまれ 狂犬病で入院の男性が死亡	28	×	×	×	

厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症研究事業）  
大規模感染症発生時の効果的かつ適切な情報伝達の在り方に関する研究  
クロスロードゲームを用いたリスクコミュニケーショントレーニング  
-危機管理対応-

分担研究者 堀口逸子 順天堂大学医学部公衆衛生学教室

## 研究要旨

リスクコミュニケーショントレーニングツールであるクロスロードゲーム（登録商標2004-83439）食の安全版を作成した。食の安全に関するステイクホルダーが参加した研修会にて用い、質問紙による評価を得た。その結果「楽しかった」「様々な意見があることがわかった」「有意義」「実施の必要性あり」など概ね良好な結果を得た。リスクコミュニケーションについての理解は不明であるが、トレーニングには有用であると思われる。

### A. 目的

教育や訓練の形式としてゲーミング・シミュレーションが利用されている。それがいわゆる講義形式と異なる点は、学習者が能動的であり、提供された論題の全体像を経験し（システムの構成要素は一つ一つ別々にではなく同時に与えられる）、プレイ後の議論や分析において無遠慮な発言や断定的な主張ではなく役割によって構造化されることなどがある。そして、教育学的成果を評価する研究が数多く見られる。吉川らは防災分野のリスクコミュニケーションを学ぶ方法として、ゲーミング・シミュレーションである「クロスロードゲーム」を開発している<sup>1)</sup>。

感染症に関する教育ツールの開発とその検証を目的とし、クロスロードゲーム（感染症編）の作成と試用による評価を実施したので報告する。

### B. 研究方法

#### 1) クロスロードゲーム（感染症編）

感染症に関して、流行が起こる前の備え、また起こってからの対応には、多くのジレンマを伴う重大な決断が含まれている。これら種々の問題を自らの問題として考え、様々な意見や価

値観に気づき、参加者同士共有することを目的としている。ゲームは、1グループ5人で実施する（多少の増減は問題ないが、奇数人数でグループを作る）。用意するものとして①問題カード②イエスカード、ノーカード（それぞれ各人に1枚）③ルール解説用紙（各人に1枚）④青座布団、金座布団（カード、ポーカーチップ、キャンディなどで代用可能）⑤（ふりかえりに使う場合のみ）クロスノート（各人に1部）⑥感想シート（各人に1枚）である。プレイヤーは、1人ずつ順番に問題カードを読み上げる。カードが読み上げられるごとに、プレイヤー全員が、そのグループの他の人たちはどう考えるかを考え、イエスカ、ノーか、多数派の意見を予測する。多いと思う方のカードを裏向けて、自分の前に置き、全員が予測を終えたら、一斉にカードを表に向ける。多数派を予測して的中させプレイヤーが、得点を表す青い座布団を手に入れることができる。グループの中で、イエスカカードかノーカードを出したのが「1人だけ」の場合は、その人1人が金座布団を1枚もらえる。この場合、他の人は、たとえ多数派となっても、誰も座布団をもらえない。問題カードをすべて読み終わった時点で、最も多くの座布団を持っている人が「勝ち」となる。所要時

間の目安は、「ルールの説明」10分、「ゲームの実施」50分、「ふりかえり」30分の合計90分である。

## 2) 評価

某県感染症担当者による講習会において試用した。当日配布した質問紙にクロスロードゲーム終了後記入してもらい当日回収した。

## C. 結果

回答者は27名で、感染症担当になってから1年以上3年未満がもっとも多く全体の40.7%を占めていた。3年未満が全体の半数を占めていた。「良かった」と回答したのは81.5%で、マイナスの評価はなかった。これを利用した研修の必要性について「必要」としたのが63.0%で、マイナスの評価はなかった。

## D. 考察

リスクコミュニケーションについての理解は不明であるが、クロスロードゲームによって感染症に関わる想定できるジレンマ問題と多様な価値観、意見があることを認識できたと考える。感染症担当職員のリスクコミュニケーショントレーニングとして、クロスロードゲームは有用と考えられた。

問題カードの内容に関して今後実際の事例を元に、さまざまな状況を網羅すべく検証が必要と思われる。

## E. 参考文献

- 1) 矢守克也・吉川肇子・網代剛(2005), 防災ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション—クロスロードへの招待, ナカニシヤ出版  
\*Crossroad(クロスロード)は、文部科学省大都市大震災軽減化特別プロジェクト(林春男研究グループ)の成果物である。(商標登録済:「クロスロード」:商願番号2004-83439(第28類)「CROSSROAD」:同2004-83440(第28類))

## F. 研究発表

1. 論文発表  
なし
2. 学会発表  
なし

## G. 知的所有権の取得状況

1. 特許取得  
なし
2. 実用新案登録  
なし

# CROSSROAD

## クロスロード

### — 感染症編 —

クロスロードをどなたにでも簡単にお使いいただくことができるよう、使い方をまとめました。主にルールと、ゲームの進め方について解説しています。ルールには2種類あります。お使いになる方の目的に応じて、よりふさわしい方をお選びください。また、展開の方法もいくつかご紹介しましたので、使いやすいと思われるものを適宜お選びください。

平成 17・18 年度 厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業  
大規模感染症発生時の効果的かつ適切な情報伝達の在り方に関する研究  
(主任研究者 丸井英二)

## ◆◆ 「参考書」と「姉妹編」のご案内 ◆◆

### ◆参考書『防災ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション』

「クロスロード」のさらに詳しい活用方法や解説は、「防災ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション ― クロスロードへの招待」(矢守克也・吉川肇子・網代剛(著)、ナカニシヤ出版、2000円)に掲載されています。リスク・コミュニケーションや防災ゲームの基礎についても、わかりやすく解説されています。本冊子とあわせてご利用いただくことをお勧めいたします。

ナカニシヤ出版⇒電話：075-723-0111 FAX：075-723-0095

### ◆姉妹編「クロスロード(神戸編・一般編)」

「クロスロード(姉妹編)」には、姉妹編があります。「クロスロード(神戸編・一般編)」です。市民編は、主として防災や地域の安全に関心をお持ちの一般住民の方々、自主防災組織のメンバー、あるいは、災害ボランティアに関心をお持ちの方々を対象に作成していますが、「神戸編・一般編」は、1995年の阪神・淡路大震災の際の神戸市職員の方々のご経験をもとに作られたものです。自治体職員の研修用に、あるいは行政の方々と市民との意見交換の折などに、ご活用ください。申込先は、市民編と同様、京都大学生協です。

京都大学生協ブックセンター⇒電話：075-771-7336 FAX：075-751-8045



Crossroad(クロスロード)は、文部科学省大都市大震災軽減化特別プロジェクト(林春男研究グループ)の成果物です。(商標登録済:「クロスロード」:商願番号 2004-83439 (第 28 類)「CROSSROAD」:同 2004-83440 (第 28 類))

不許複製

制作・著作: Team Crossroad チームクロスロード  
(網代剛、吉川肇子、矢守克也:50音順)

---

# クロスロード実施の手引き (感染症編)

---



## I. ゲームの進め方

1. 目的
2. 概要
3. 所要時間の目安
4. 用意するもの
5. 実施のポイント
6. 実際のゲームの流れ
7. 話し合いのヒント

## II. ゲームのねらいと展開の仕方

1. ゲーム実施の注意点
2. 参加者の座布団の数を確認しながらゲームをふりかえりましょう
3. クロスノートを使ってゲームをふりかえりましょう
4. クロスシードを使ってゲームをふりかえりましょう

## III. 応用ルール



## I. ゲームの進め方

### 1. 目的

クロスロード感染症編は、感染症発生時に起こるであろうさまざまな問題を自らの問題として考え、またさまざまな意見や価値観を参加者同士共有することを目的としています。

「クロスロード」とは、英語で「岐路」、「分かれ道」を意味しています。アウトブレイクが起こる前のそなえ、また起こってからの対応には、多くのジレンマを伴う重大な決断が含まれています。

トランプ大のカードを利用した手軽なグループゲームながら、参加者は、感染症へのそなえや感染拡大後に起こるさまざまな問題を自らの問題としてアクティブに考えることができ、かつ、自分とは異なる意見・価値観の存在に気づくことができます。

カードの内容は、感染症の問題を日常の業務として取り扱っておられるかたがたにお使いいただけるようなものが含まれています。また、市民のかたがたにやっていただくことで、この問題に対する市民の意識啓発につなげることもできます。さらに、多様な立場の方々と一緒にゲームに参加すれば、感染症問題に関して、事前に合意を形成しておく一助ともなるでしょう。

### 2. 概要

ゲームは、10枚の問題カードとイエス・ノーカード各1枚を使って行います。

プレイヤーは、1人ずつ順番に問題カードを読み上げます。カードが読み上げられるごとに、プレイヤー全員が、そのグループの他の人たちはどう考えるかを考え、イエスか、ノーか、多数派の意見を予測します。多いと思う方のカードを裏向けて、自分の前に置きます。全員が予測を終えたら、一斉にカードを表に向けます。多数派を予測して的中させプレイヤーが、得点を表す青い座布団を手に入れることができます。10枚すべて読み終わった時点で、最も多くの座布団を持っている人が「勝ち」となります。

### 3. 所要時間の目安

ルールの説明	10分
ゲームの実施	50分
ふりかえり	30分

### 4. 用意するもの

(1) 以下のものを用意します。

- |                  |                           |
|------------------|---------------------------|
| ①問題カード (10枚1シート) | 各人に1枚(キットには2シート20問入っています) |
| ②イエスカード          | 各人に1枚                     |
| ノーカード            | 各人に1枚                     |
| ③ルール解説用紙         | 各人に1枚                     |

(この手引きの添付資料1をコピーしてお使い下さい)

- ④座布団カード (ポーカーチップ、キャンディ、などで代用可能です)

: グループの机の中央に山にしておいておきます。

- |                  |                        |         |
|------------------|------------------------|---------|
| 青座布団             | 目安としてプレイヤーの人数×10枚程度    |         |
| 金座布団             | 適宜 (目安としてプレイヤーの人数と同程度) |         |
| ⑤ (ふりかえりに使う場合のみ) | クロスノート                 | 各人に1部ずつ |
- (この手引きの添付資料2をコピーして、お使い下さい)
- |       |         |
|-------|---------|
| 感想シート | 各人に1枚ずつ |
|-------|---------|
- (この手引きの添付資料3をコピーして、お使い下さい)

## 5. 実施のポイント

### (1) グループ構成

① 1 グループ 5 人程度が適当です。多少の増減は問題ありません。多数決をとるので、できれば奇数人数でグループを作る方がよいでしょう。

### (2) 会場およびグループ数

① グループで話し合いのできる机と椅子。グループ同士は、それぞれの話し合いの音が邪魔にならない程度に離れていることが望ましいです。

② 会場の大きさや参加者数に応じて何グループでも実施可能です。

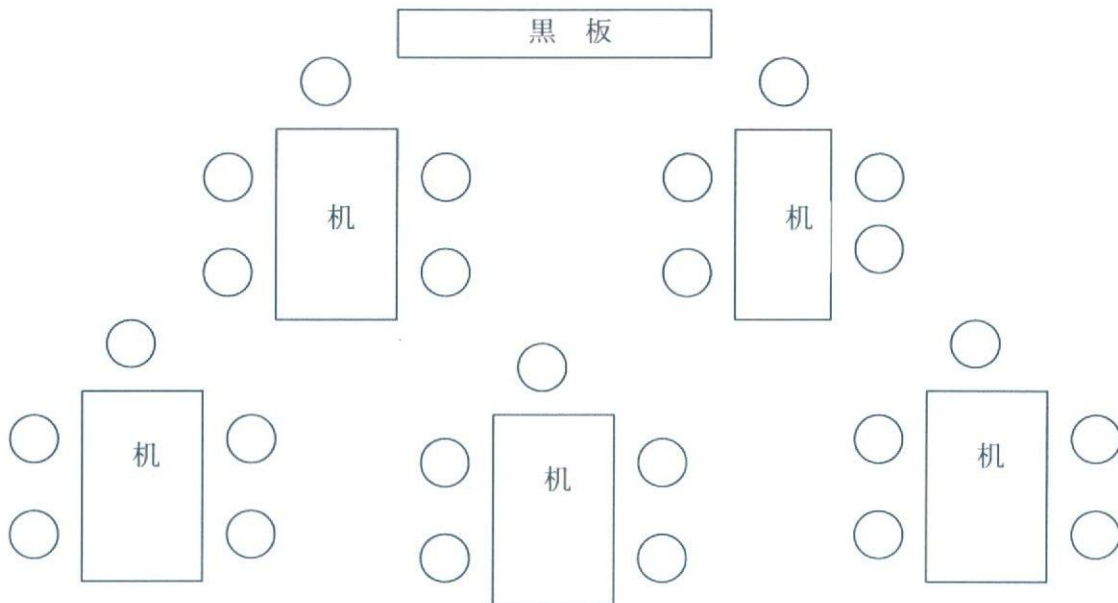


図 会場のレイアウト例

### (3) 所要時間

① 基本的なルールでの実施は 50 分程度です。

② ふりかえりの時間は目安として 30 分ですが、もっと長くして話し合いを続けることもできます。

### (4) 座布団の使い方

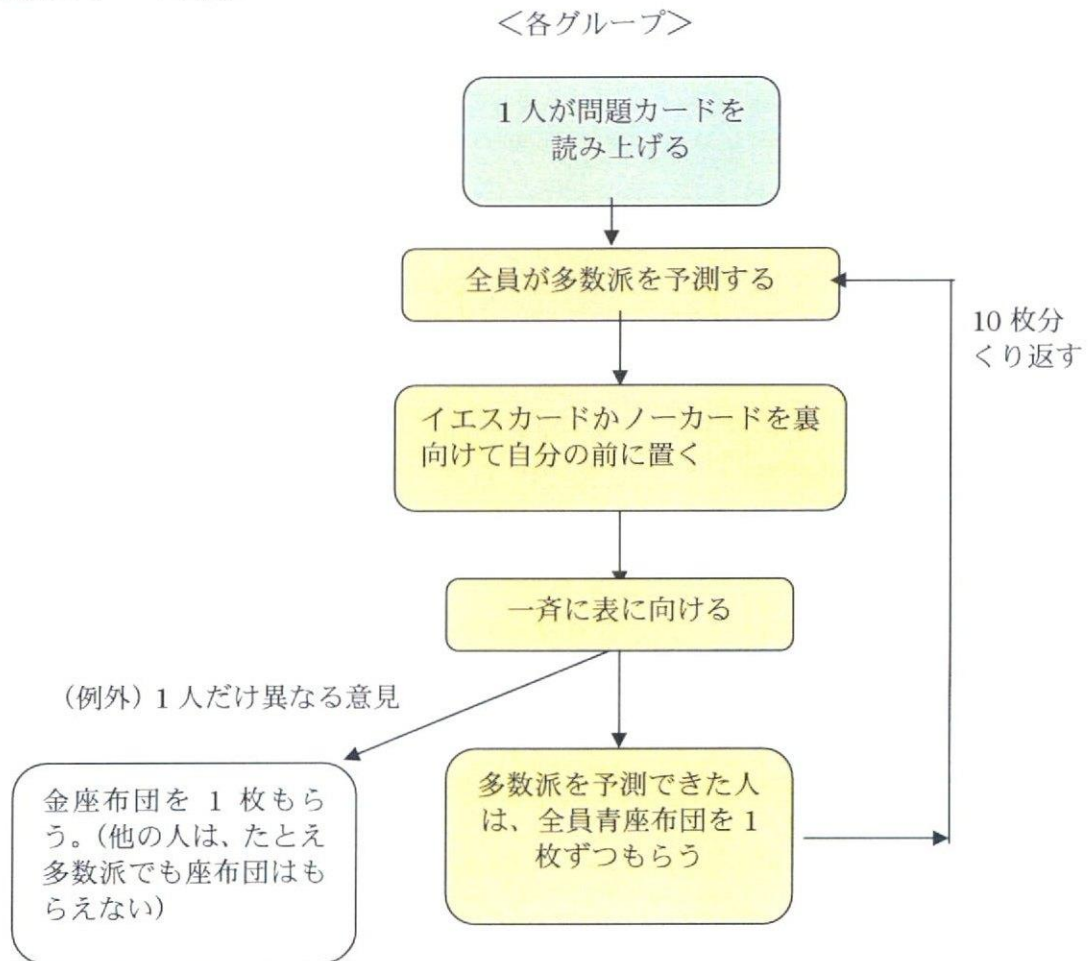
① 多数派になったら、青座布団がもらえます。青座布団 1 枚で 1 ポイントだと考えるとわかりやすいでしょう。

② 1 グループのプレイヤーの人数が偶数の場合で、イエスカードとノーカードの人数がちょうど半々の場合は、「痛み分け」とし、誰も座布団をもらえないこととします。

③ グループの中で、イエスカードかノーカードを出したのが「1 人だけ」の場合は、その人 1 人が金座布団を 1 枚もらえます。この場合、他の人は、たとえ多数派となっても、誰も座布団をもらえません。

④ 青座布団と金座布団は、どちらも同じ 1 ポイントとして数えます。

6. 実際のゲームの流れ



## 7. 話し合いのヒント

ゲームを実施するためには、添付資料1「ルール解説用紙」をプレーヤー1人に1枚ずつ(どちらか使いやすい方、あるいは、両方を裏表1枚に印刷)配布し、そこに書かれてあることを読みあげて説明すれば問題なくゲームをすることができます。

なお、以下では、ゲーム後の話し合いがよりよく進むよう、ヒントとなる質問を掲載しました。適宜選んでお使い下さい。番号の前に星印(☆)のついた質問は、推薦質問です。☆2つは非常に推薦、☆1つは推薦です。

また、添付資料2の「クロスノート」を使いながら、イエスの判断、ノーの判断のそれぞれにどんな問題があるのか、議論を深めるのもよいでしょう(後述「IIゲームのねらいと展開」4.参照)。

### 7-1. 座布団を数えてみましょう。

- 1) 一番たくさん座布団を持っている人はどなたですか？
- 2) その人はどうしてたくさん座布団を手に入れることができたのでしょうか？
  - その理由をお話下さいますか？
- 3) 一番座布団の少なかった人はどなたですか？
- 4) その人はどうして座布団が少なかったのでしょうか？
  - その理由をお話下さいますか？
- 5) 金座布団をお持ちの方に伺います。どの問題で金座布団を手に入れられましたか？
  - それは、ねらって金座布団をもらわれたのでしょうか？
  - それとも、「多数派を予測したのに、意外と少数派だった」のでしょうか？
- 6) このゲームの中では多数派を予測してもらいました。他のメンバーの意見を予測するのではなく、素直に自分の意見を出すというルールだったとしたら、違った答えを出していただろうと思うカードはどれですか？
- ☆☆7) 問題カードの中で、「自分の意見とみんなの意見がずいぶん違っていた」とか、「意外だった」というのはどれだったのでしょうか？
  - それはどういう食い違い方でしたか？グループの皆さんと話し合ってみて下さい。
- ☆☆8) グループの中で意見が半々に近かった問題はありますか？
  - それぞれ、イエス、ノーに決められた方は、どうしてそれを選ばれたのでしょうか？
  - 皆さんの意見を聞いて、もう一度考えてください。グループの中で、「正解」を決められるのでしょうか？
  - 将来、あなたが同じような状況に出会ったとしたら、本当のところ、どうしますか？
- ☆☆9) 10個の状況の中で「私はこれは迷った」とか、逆に「すぐ決められた」というものがありますか？
  - 迷ったとしたら、その理由は何ですか？
  - 逆にすぐ決められたのはなぜですか？
- ☆☆10) 皆さんが一番迷った問題カードを1人1枚ずつ選んで下さい。そして、もし「この状況のこの条件が変わっていたら、私は意見を変える(イエスカードをノーカードに、ノーカードをイエスカードに)」というところを、条件を挙げて説明して下さい